

2018年7月 (No.349)

主な内容とページ

最高業績を更新、半導体関連株式上場企業 114 社	1
売上は 10 年ぶりに最高更新	2
売上よりも利益志向	2
材料、ほぼ半数の企業が最高売上更新	3
41 社が利益で最高更新	5
約 3 分の 1 が売上、利益ともに最高更新	8
分野別利益率上位 5 社	11
ROE8%以上は 55 社	12
再び信越化学工業と東京エレクトロン(SRL だより)	13

最高業績を更新、半導体関連株式上場企業 114 社

半導体関連上場企業の 17 年度(18 年 3 月期)業績は、売上、利益等で最高を更新した。

1. 対象 114 社の総売上は前期比 17.2%増の 12.95 兆円、経常利益は同 48.3%増の 1.38 兆円となり、ともに最高を更新。利益率も 10.2%と初の二桁台に乗せ、全産業平均に比べても上回っている。
2. 売上、利益で最高を更新した企業は 44 社および 41 社。売上、利益ともに最高を更新したのは 32 社に達し、例年のほぼ倍の企業が新たな成長を実現した。
3. 一方で、未だ過去の最高業績から落ち込み、成長から見放された企業も多く、伸びているところと停滞した企業の格差が浮き彫りになっている。

再び信越化学工業と東京エレクトロン

3年前の本欄は「信越化学工業と東京エレクトロン」と題し、両社の強さや半導体産業での位置づけ、役割など紹介した。その後の両社の位置は変わらず、最新業績では、さらに飛躍し、その輝きは増しているようである。世界トップあるいはトップに伍す企業が存在することは、頼もしく、日本の誇りだ。

日系企業の材料での強さは、長期的視点での取り組みや将来市場への果敢な挑戦。装置では、自動車産業にみられる厚い産業基盤がもたらす高品質のモノ作りとたゆまぬ改善が評価されている。裏返せば、海外ライバルにとっては、同じ土俵では勝負しにくい。変化への機敏な対応、ソフトウェアの活用など対抗策だろう。

半導体材料と装置で、わが国競争力が維持されているのは、国民性や社会構造が反映されたものかもしれない。まじめにこつこつ愚直に取り組む。いいと思う。そして半導体らしさ、半導体ならではの特色として大いに収益を高め、さらに挑戦、新たな夢を実現してもらいたい。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2018年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2018年7月(毎月1回発行)第29巻7号(通巻349号)

発行元:株式会社 SRL
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

July 2018, No.349

Semicon Research Ltd.
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014
Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2018

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)